

山梨県の広報誌

ふれあい

特集号

夏

vol.57



巻頭

可能性を秘めた 山梨で、働き・暮らす

俳優

柳生 博さん

動画で
見てみよう

可能性を秘めた山梨で、働き・暮らす

山梨は、東京圏に隣接しながらも豊かな自然に恵まれ、高い品質を誇る農産物や優れた技術を持つ産業などの地域資源に溢れています。また、中部横断自動車道やリニア中央新幹線の整備によって、さらなる発展が期待されるなど、山梨は大きな可能性を秘めています。こうした中、県では、誰もが「山梨で、働きたい・暮らしたい」と思える環境づくりに向け、さまざまな取り組みを行っています。



山梨で生きがいを見つける

豊かな自然環境や交通の利便性の高さなどから、山梨は移住希望地として人気があります。そこで今回は、41年前に八ヶ岳南麓（北杜市大泉町）に移り住み、「人と自然の仲のいい関係」を築いた俳優の柳生博さんが、山梨で生きがいを見つけて暮らす魅力を語ってくれました。

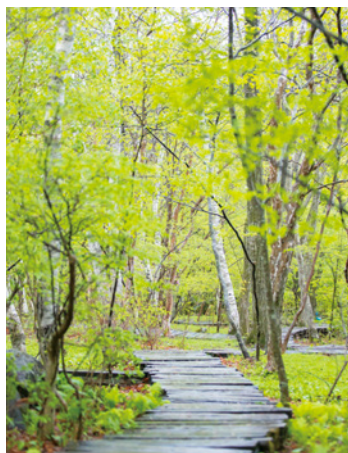
大いなる山懐に抱かれて、森に学ぶ

40歳の時、年間700本以上のテレビの仕事をしていたので、家族と過ごす時間がなく、家族に辛い思いをさせてしまったり、私自身、精神的にバランスを崩しかけたりしました。このままではいけない、いつそ役者をやめようかと思ったとき、子どもの頃、祖父によく言われていた言葉を思い出しました。「グジグジしているとき、何かを決めかねているときは、野良仕事をしなさい。野良仕事は、野が良くなる仕事だ」という言葉です。私は妻と2人の息子を連れ、ここ八ヶ岳南麓で暮らし始めました。41年前のことです。当時のこの辺りは荒れ果てた人工林でしたが、もともとあった雑木林にしようと、家族と共に落葉広葉樹を植えてい



きました。私たちは、時間をかけて本来の山の姿に戻したんです。そして30年前には「八ヶ岳の麓で共に遊びましょう」をコンセプトとした「八ヶ岳倶楽部」をつくり、若手芸術家たちの作品のお披露目の場としました。作品を





「季節の移り変わりが体感できる素晴らしい自然環境の中で暮らし、仕事をし、子どもを育て、人生を全うする。それは人間としてとても豊かなことですよ」と優しい笑顔で語る、今年、81歳になった柳生さん

柳生さんが40年かけて育てた自慢の雑木林

俳優 柳生 博さん Hiroshi Yagyu

1937年茨城県生まれ。

東京商船大学に進学するも、視力低下により船長になる夢を断念。その後、俳優座養成所に入り、1961年、映画「あれが港の灯(ひ)」で俳優デビュー。以来、俳優やナレーション、司会者として活躍。

私生活では、41年前にハケ岳南麓に住まいを構え、雑木林をつくり、「ハケ岳倶楽部」をオープン。『森と暮らす、森に学ぶ』など著書多数。財団法人日本野鳥の会会長も務めている。



ハケ岳倶楽部のギャラリーでは、ハケ岳南麓に移住してきた芸術家の展覧会などを行っている。写真はハケ岳倶楽部の社長である息子の宗助さんと



私の息子はもちろん、7人の孫たちもここで育ちました。最近では、若い世帯の移住者が増え、学校帰りの子どもたちが道草をしながら、はしゃぐ姿もよく見かけますよ。素敵な大人になるためには、子どもの頃に自然の中でさまざまな体験をすることが大切です。

私は、みんなが家族のようにつながっているのが大好きです。人と人、人と自然が共に生きる環境がある山梨だから健康寿命も長く、子どもからお年寄りまで、みんなが生き生きと暮らしていけるのでしょうね。山梨には、都会ではできない仕事があり、自然と共存した暮らしができます。素晴らしい自然環境に生まれ、都会に近く利便性も高い山梨は、実に大きな可能性を秘めていると思います。

山梨の皆さんも、もっと山梨を好きになり、「山梨で、働き・暮らすこと」に、改めて誇りを感じてほしいです。

山梨に住んでいることを誇りに思ってもらいたい

紹介してきた芸術家の中には、山梨に魅せられてこの周辺にアトリエを構え、創作活動にいそしんだり、山梨暮らしを楽しんだりしている方もいます。ハケ岳倶楽部のスタッフも移住者がほとんどで、「働くこと・暮ら

すこと」に充実感を持っているようです。南アルプスや富士山に見守られ、ハケ岳に抱っこされているような感じがするこの場所は、誰もが自然と開放的になれる、そんな魅力に溢れていると思います。



山梨暮らしは最高だよ!

動画で見てみよう! 柳生 博さんのインタビュー

①スマートフォンまたはタブレットに「Layar」のARアプリをダウンロード(無料)②アプリを起動③左の写真にかざした後、タップすると動画が再生されます。





甲府盆地を南北に走る中部横断自動車道



リニアと桃源郷



山梨で働きたい・暮らしたいと思える 環境をより充実していくために

豊かな自然に恵まれている山梨には、全国有数の生産量を誇る果樹をはじめとした農業、ワイン・ジュエリー・織物といった地場産業、さらに、豊かな森林を活用した林業など、地域資源を生かした多彩な産業があります。また、昭和57年の中央自動車道全線開通を契機に、機械電子産業が山梨の基幹産業へと成長し、今では、山梨の経済をけん引しています。

こうした中、県では、山梨をさらに活

性化していくため、全国トップレベルの支援制度により企業立地を促進するとともに、さまざまな分野で積極的に活動している県内企業が新分野へ参入しやすいように、研究開発のサポートや技術支援などを行っています。また、県内における起業を促進するため、山梨の地域資源を生かしたビジネスアイデアコンペを実施したり、女性の起業をサポートしたりするなど、地域に根差した新しい事業の創出にも力を入れています。

2年後には中部横断自動車道南部区間の全線開通、9年後にはリニア中央新幹線の開業が予定されています。こうした交通アクセスの飛躍的な向上により、山梨は今後、大きく発展していく可能性を秘めています。

また、移住希望地ランキングでは常に全国トップクラスであり、東京にある、山梨への移住相談の窓口「やまなし暮らし支援センター」には、多くの相談が寄せられるなど、山梨は暮らしてみたいと思わせる魅力に溢れています。

県では、今後も、産業の活性化を図り、誰もが生涯にわたり生きがいを感じながら働きたいと思える環境づくりを進めていきます。

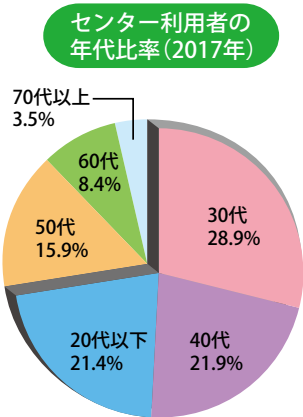


山梨の持つ、大きな可能性について 有識者から聞く

各分野の有識者が県の直面する諸課題について話し合う「やまなし未来会議」の委員でもある、山梨中銀経営コンサルティング経済調査部長・岡本新一さんに、データを踏まえながら、移住希望地としての人気の高さ、健康寿命の長さ、そして、立地条件の良さなどに秘められている山梨の可能性について、お話を伺いました。

移住希望地ランキングで 全国上位につける

NPO法人ふるさと回帰支援センターによる移住希望地ランキングを見ると、山梨は常に長野と1位、2位を競っています。最近では価値観の多様化に伴い、ずっと都会で暮らすのではなく、地方への移住を検討する人が急増しています。一般的に、移住は退職後にするものというイメージがありますが、実際は移住相談者の7割超が40代以下となっています。年代別にみると山梨は60代以上の人気が全国でトップですが、30代と40代も2位となっており、子育て世代にも人気があります。



NPO法人ふるさと回帰支援センター調べ



山梨中銀経営コンサルティング(株) 経済調査部長 岡本 新一 さん

世界トップを誇る 健康寿命の長さ

厚生労働省が今年3月9日に公表し

移住人気の高さは、人口の社会増もたらすほか、子育て世代など若年層の移住が増えれば、人口の自然増にもつながります。また、人手不足に悩んでいる県内企業と移住者の上手なマッチングにより、産業が活性化していくこと、そして、移住者が外の目で山梨の魅力を発見するなど、地域の活性化といった面も大いに期待できます。このように、移住先として人気がある山梨は、大きな可能性を秘めていると感じます。

健康寿命上位5県

【男性】	(年齢)
山梨	72.31
愛知	72.15
静岡	72.15
千葉	71.93
石川	71.93

【女性】	(年齢)
山梨	75.49
静岡	75.43
愛知	75.30
群馬	75.25
栃木	75.14

平成22年・25年・28年の調査の平均値、小数点以下第3位を四捨五入
出典：厚生労働省「健康日本21(第二次推進専門委員会)資料」

山梨の最大の武器は 極めて恵まれた立地条件



東京からわずか1時間半で、緑豊かな環境に

東京圏に隣接しているながらも世界遺産富士山をはじめ3千メートル級の山々が連なる風光明媚な山梨は、自然と共存した暮らしを楽しみながら、必要に応じて気軽に東京に行き来できる恵まれた立地にあります。この利便性の高さは、仕事と暮らしの両面にさまざまな可能性をもたらすと思います。例えば、東京への通勤、平日は東京、休日は山梨といった二地域居住も可能です。9年後にはリニア中央新幹線の開業により、県外への移動時間が大幅に短縮されます。また、ICT環境の充実によるテレワークやサテライトオフィスの普及に伴い、自分のライフスタイルにあった働き方の選択肢が広がっていくことも考えられます。こうした立地条件の良さを最大限生かしていくためには、今後、産学官など関係機関の連携を強化し「オール山梨」で取り組んでいく必要があり、山梨を担っていく若者の意見をしっかりと聞くことも大切です。

移住人口の高さは、人口の社会増もたらすほか、子育て世代など若年層の移住が増えれば、人口の自然増にもつながります。また、人手不足に悩んでいる県内企業と移住者の上手なマッチングにより、産業が活性化していくこと、そして、移住者が外の目で山梨の魅力を発見するなど、地域の活性化といった面も大いに期待できます。このように、移住先として人気がある山梨は、大きな可能性を秘めていると感じます。

高齢者が生き生きと活躍する姿を示すことは、「山梨にいれば、いつまでも元気に活躍できる」という希望を若い人たちに与え、一度は県外に出て、最終的には地元山梨に戻りたいとの思いにつながっていくと思います。

※健康寿命とは「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間のこと」をいいます。



産官の連携から生まれる 山梨の産業の活性化

県では、さまざまな分野で積極的に活動している県内事業者に対して、研究開発のサポートや技術支援などを行っています。また、交通の利便性の高さや恵まれた自然環境を強みとして、企業誘致にも力を入れています。こうした取り組みは、企業や経営者の新たなチャレンジを促すとともに、山梨の産業の活性化につながっています。

産業技術センターとの連携から自社の可能性を広げていく

藤精機株式会社(昭和町)

当社は創業以来50年、最新の加工設備と高い技術力で金属加工を行い、先進的な製品を生み出してきました。金属加工の中でも精密板金事業とプレス事業の両方を手掛けているのが当社の特徴です。また、設計から加工、組立までを自社で担える強みもあり、さまざまな業界のニーズに応える金属加工製品を提供しています。ちよつと変わった仕事としては、重要文化財の銅葺き屋根の修復に携わったこともあります。



藤精機株式会社
代表取締役 新藤 淳さん

最近では、経済産業省が実施している、戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン)に、山梨県産業技術センターとコンソーシアムを組む研究開発が採択されました。どのような研究開発かという点、燃料電池車の燃料となる水素を補給する水素ステーションで使われる高圧配管を、当社の

溶接技術により安価に提供できるようにすることで、水素ステーションの普及を促進し、クリーンな社会の実現に貢献するというものです。今後は、センター、当社、それぞれの強みを生かし、互いに異なる領域を担って事業を進めていきます。こうした研究開発に挑戦することは、当社の技術革新につながりますし、産官が連携することで、企業の可能性がより広がると感じています。

藤精機株式会社の「女性が働く環境づくり」

結婚・出産などを経ても、仕事を続けてもらえるように、短時間正社員の制度を設け、女性が働きやすい環境を整えています。



また当社は、積極的に女性の正社員を雇用しています。「Made in Japan」の誇りを常に持つ「心のこもったものづくり」を追求している当社では「精密板金加工の分野などで、女性の繊細な感性が大いに生かされていると思います。」

自分の手で造ったものが 世界に羽ばたくことがうれしい

部署ごとに特徴がある仕事なので、基礎からしっかりと専門的な技術を習得する必要がありますが、初心者でも徐々に技術を身に付ける中で、ものづくりの喜びが感じられると思います。当社の技術力は「世界に誇れる」という自信があります。自分の手で造ったものが世界に羽ばたくというのはうれしいですし、大きなやりがいを感じています。



新人の女性社員に溶接技術を指導する佐藤さん(右)

板金事業生産部 佐藤 志保さん

関西方面からのアクセスの良さが決め手となり 山梨ビジネスパーク内に工場を新設

株式会社 光製袋工業所(中央市)

当社は、軟包材製袋会社として、食品を入れるパウチを中心に液体洗剤詰め替え用パウチなど、フィルムを用いた各種形態の袋の加工を行っています。数年前から関東の取引先様からの受注が増える中、京都本社を増築しようかとも思いましたが、取引先様からの要望もあり、関東近郊への工場新



株式会社 光製袋工業所
代表取締役社長 田中 大介さん

東京から笛吹市に移住 就農支援制度を活用し、果樹農家へ

東京ではIT関連の会社に勤めていましたが、以前から農業に興味がありました。そんな中、東京・池袋で「新・農人フェア」という就農についての相談会が開催されるのを知り、両親の出身地として親しみがある山梨県のブースで話を聞きました。その時に「山梨で就農するなら果樹がいいですよ」と勧められたのです。そこでまず、山梨県の専門



ブドウ畑で誘引作業をする跡部さん。「時間を見つけて、山梨の温泉巡りをするのが楽しみです」



果樹農家経営
跡部 祐一さん

学校・農業大学の農業体験研修で農業を体験し決意を固め、7年前に山梨に移住しました。移住後は、農業大学校での長期研修、地域の先進農家であるアグリマスターからの指導、研修手当といった就農支援制度をフル活用し、5年前に独立しました。独立後もアグリマスターの方が、地域とのつながりをつくってくれました。アグリマスターの存在はとても大きなものでした。

「果樹王国」といわれる山梨ですが、近年、農業人口が減っていると聞いています。なので、今は、「産地を守りたい」という思いでいっぱいです。これからは、より技術を高め、私が研修生を受け入れる立場となって、山梨の農業を支えてくれる担い手を育てていきたい、それが目標です。

設を考えました。万一機械が止まるようなアクシデントが起きた場合に、本社からベテラン技術者が一刻も早く到着できる距離であること、関東の取引先様へのアクセスが良いことを考慮して、利便性の高い山梨を新設先に決めました。さらに、中部横断自動車道の南部区間が全線開通すると静岡まで1時間ですし、リニア中央新幹線が開

業すれば、関西方面はぐっと近くなります。また、山梨は地形や気候が京都とよく似ていることもあり、とても親しみやすい雰囲気があります。

工場を新設するに当たり、県や市の方が頻繁に足を運んで、税制優遇や補助金などの支援制度について詳しく説明をしてくれました。とても心強かったです。おかげさまで、売り上げも順調に伸び、新設2年目



光製袋工業所で加工しているパウチ



調に伸び、新設2年目には、工場の増築や機械の増設を行うなど、山梨に工場を新設した成果は顕著に出ています。

現在、山梨工場には、25人勤務していて、そのうち20人が地元採用の正社員です。皆さんとても真面目で仕事熱心で頑張ってくれています。

起業を促進し、夢の実現をサポート

起業は、経済の活性化はもとより、地域に根差した新しい事業の創出や定住人口の確保につながります。そこで県では、産学官など関係機関の連携により、起業家を育成することを目的としたビジネスアイデアコンペ「Mt.Fujiイノベーションキャンプ」や、起業を志す女性や起業して間もない女性を対象とした「女性の起業支援事業」を実施しています。

「起業するなら山梨だよね」と言われたい

「Mt.Fujiイノベーションキャンプ」は、県のイノベーションイニシアチブである、シナプテック(株)代表取締役の戸田達昭氏と共に、産学官など関係機関が連携して、平成26年度から毎年実施しています。県内での事業化、または県内の地域資源の活用を条件にビジネスプランを募集、合宿形式で専門家のアドバイスによりプランをブラッシュアップし、最終日にはコンペを行います。本事業の特徴は、「協創パ-



新事業・経営革新支援課 齊藤 浩志 主査

トナー」として大企業が参画してくれていること、キャンプ終了後もきめ細かな支援が受けられることです。起業しても事業の継続が非常に難しいといわれる中、このキャンプ参加者による起業17件、新規事業23件の全てが今も存続しています。これは何より素晴らしい成果です。

一方、「女性の起業支援事業」はNPO法人Dond Place(ポンド・プレイス)と共に、プロジェクト名「CO+SHEGOTO(コーシゴト)」として平成28年度からスタートしました。結婚・出産などのライフイベントとの両立が課題の女性にとつて、本来の力を生かす支援とはどうあるべきかを考え、事業を実施しています。参加者同士のより良い関係性を築くことや、参加者自身のぶれない軸をつくりあげingことを大切にするとともに、託

参加者募集中!

Mt.Fuji イノベーションキャンプ 2018

イノベーションキャンプ 山梨

CO+SHEGOTO 2018

女性の起業を応援するプロジェクト

コーシゴト 山梨



Mt.Fujiイノベーションキャンプ



女性の起業を応援するプロジェクト「CO+SHEGOTO」

児サービスを提供するなど参加者に寄り添った運営を心掛けています。ワークショップ、経営ノウハウ習得のための講座、先輩起業家の現場見学会などを通じ、「なりたいたい自分」をつくりあげ、さまざまなネットワークを広げることにより、参加者の夢の実現を支

援しています。山梨に起業家を生み出す風土を根付かせるためには、県を挙げて起業の機運を高めることが重要です。山梨らしい起業・創業支援の仕組みを構築し「起業するなら山梨だよね」と言われることを目指しています。

日本ワイン発祥の地、山梨で世界に通用するワインを造りたい

ワインのインポーターとして世界のワインを取り扱っていた私が、造り手への転身を機に心に決めたことは、日本がカリフォルニアやニュージーランドに並ぶ新たなワイン産地であることを世界に認めてもらうこと。8年前、日本ワイン発祥の地である山梨でワイン造りに挑戦したいと思い、大阪から山梨に移住しました。当時、山梨のワイナリーを見て



ドメーヌ・デ・テンゲイジ 代表 天花寺 弓子さん



エステをする仕事場は、子どもたちと一緒に改装した自宅の一室。「美容の仕事を通して人をケアしていきたい」という志田さんは、福祉施設などへも出向いている

家族との時間を大切にしながらできる仕事 起業は女性の働き方のひとつ

結婚前からエステなど美容に関わる仕事をしてきました。しかし、結婚すると女性を取り巻く環境は大きく変化します。知らない土地に来て出産と育児を繰り返す中で、好きな仕事ができなくなることにもストレスを感じ、病気になるてしまつたんです。入院中に看護師さんが痛みがひどい私の体をさすってくれたり、友人がマッサージをしてくれたりしました。人に触ってもらうことで安心感を得て、気持ちがお楽になつていった私は、自分がやつてきた仕事は人を



ナチュラルビューティースクールSmiley
代表 志田 さおりさん



助けられる仕事なんだと気付いたんです。そして、退院後半年で起業しました。こんなに早く起業したのは、悔いのない人生を歩みたいという思いがあつたからです。

起業して3年後「CO+SHEGOTO」に参加しました。そこで仲間ができたことでさらに頑張る気持ちが高まりましたし、金融機関や行政からの支援についての情報を得ることもできました。起業には人とのつながりがとても大切だということも学びました。

私は、今も家族との時間を最優先にしながら仕事をしたと考えています。起業したからこそ、大切なものを守りながら、仕事ができます。女性の働き方として起業というののひとつの選択肢だと思つています。

回つて、地元のおいしいちゃんやおばあちゃん、二升瓶ワインを湯飲みで飲みながら肉じゃがを食べている姿を見て「山梨にも小さなフランスがあるんだ」と感銘を受けたことを覚えています。

その後、山梨大学大学院で醸造を学び、県や地域の皆さんなどに力を貸していただきながらブドウ栽培を始めました。平成28年度にはイノベーションキャンパスに参加し、「耕作放棄地にワイナリーを作り、世界基準のワインを作りたい」をテーマにコンペに臨み、始動部門で最優秀賞を受賞しました。ワインと



ラベルには、マスコットのラビットとブドウ、明野のほ場から見える風景が描かれている

は全く異なる分野で活躍する多くの方々と出会うことができ、新たな発想を生み出す原動力になっています。昨年の秋には、念願のワイナリー「ドメーヌ・デ・テンゲイジ」もオープンしました。

これからの目標は、日本の固有品種で世界に通用するワインを造ることです。山梨特産の白ワイン用ブドウ「甲州」は近年世界で評価されていますが、赤ワイン用ブドウ「マスカット・ベリーA」はまだまだ世界に知られていません。大学院の時の研究対象でもあり、愛着ある特別なブドウなので、世界にチャレンジしていきたいですね。

好きなことを仕事にするのは苦しいこともあります。信念とこだわりがあれば分かつてくれる人が必ずいます。私も初心を忘れず、ぶれることなく、頑張っていきたいと思つています。



後ろに広がるのは、明野のほ場。もとは耕作放棄地だった。このほかに、農家の高齢化により管理できなくなった葎崎のブドウ畑を受け継ぎ、栽培している

仕事と子育てを両立でききる環境づくり



げんきキッズクリニック「ドリーム」(昭和田)

子どもたちの体調に合わせて仕切られている、個別の病児・病後児保育室。保育士さんが常に見守っている(右上・左)
写真にコメントを添えて、子どもの一日の様子を保護者に伝えている(右下)

日本一健やかに子どもを育む山梨では、子育ての不安や負担を軽減するさまざまな取り組みを行っています。今年4月からは、子育て世帯の仕事と子育ての両立を支援するために、全国で初めて、県内全域での病児保育の広域利用を開始しました。



県内どこに住んでいても 病児保育施設を利用できます

女性の社会進出に伴って、結婚・出産後も働き続ける女性が増えていきます。特に育児休業明けに1〜2歳児を保育所に預ける世帯が増えてきています。

県では、子育て世帯を支援するため、県民を対象とした「子育て環境に関するアンケート」を実施しました。その結果、「子どもが病気のとき」に最も負担や不安を感じ、「病児・病後児保育の充実」を求める声が多いという実態が明らかになりました。一方、病児・病後児保育は市町村が主体であるため、施設がある市町村にお住まいの方だけに利用が限られていました。そこで、県内の全市町村に協力していただき、協定を締結し、県内全域での利用を可能としました。



子育て支援課
古川 清美 主査

これにより、今年4月から、県内にお住まいの小学6年生までのお子さまが、全ての病児・病後児保育施設の利用ができるようになりました。利用する場合は、医師の診察を受けてからとなります。また、事前の登録や利用料金なども各施設により異なりますので、詳しくはお住まいの市町村の保育の窓口にお問い合わせください。

医療と保育の場を集約し 安心して預けられる保育環境

子育て支援は、子どもとそのご家族を主体に、周りがそれを取り巻きながら集約化を図ることが大切だと考え、13年ほど前に小児科のクリニックと保育園、そして病児保育室・げんきキッズクリニック「ドリーム」を併設しました。医師、看護師、保育士、栄養士というそれぞれの専門性を持つスタッフが「子どもを中心に、ご家族の心と体を元気にする」という思いでやっています。

初めは病気の子どもの預けることに、ためらいや不安を感じる保護者の方にもいらっしゃるかもしれませんが、子ども様の様子を見ていますと、保育士



げんきキッズクリニック 院長 宮本 直彦 さん

共働きのので、広域利用ができて助かっています

町外に住む私たちも、小児科の先生や看護師さん、保育士さんがいてくださるこちらの施設を利用することができます。お迎え時に看護師さんから、子どもの一日の様子について説明していただけるのも安心感につながっています。



さんたちが手厚く接することで案外早く慣れてきます。そばで見守ってくれる人がいると、子どもはそれが分かって安心するのです。今ではクリニックに診察に来た子どもが、病児保育に行きたがるほど人気があるんですよ。

私は小児科医として、常に自分のできる限りのことをやっていたと思うのですが、子どもは急に具合が悪くなることも多いですから、病児・病後児保育を、仕事と子育てを両立するための「お守り」のように思っていたら、いざという時は、どうぞ安心してご利用ください。

県内の病児保育施設 位置図



- 病児・病後児 対応型(10施設)
- ▲ 病後児 対応型(5施設)

【病児】容態の安定している病気の子ども
【病後児】病気は回復しているが、感染症などの理由から登園できない子ども

対応施設について詳しくは

山梨 病児保育

安心して仕事と子育てができるようになりました

家からも勤務先からも来やすい場所なので利用させてもらっています。病児・病後児保育施設があるおかげで、出産後も早く職場復帰でき、欠勤も最小限で済んでいます。子育てしやすい環境があることで気持ちにも余裕が生まれました。



山梨県の子育て支援

第2子以降保育料無料化

県内全市町村で第2子以降の保育料を、3歳になるまでの間、無料化しています。
※認定は市町村で行います。詳しくはお住まいの市町村にお問い合わせください。

やまなし子育て応援カード

県内の18歳未満の子ども、妊婦及びその同居の家族が、全国の協賛企業・店舗で「やまなし子育て応援カード」を提示すると、各種割引や特典サービスを受けることができます。カードはお住まいの市町村で交付してもらえます。



漫画「リニアで変わるやまなしの姿」
登場キャラクター



ピョン吉

ヒロシが開発した万能人工知能ツール



ヒロシ

発明家



ヒカル

ヒロシの息子で小学生



京子

旅館の女将



キョウカ

京子の娘



エルザ

観光で山梨にきた
フランス人



ゴリライモ

(五利良 イモ太郎)
医療機器の開発者



ゴリ作

(五利良 作太郎)
ゴリライモの息子



ウメヤ

実業家

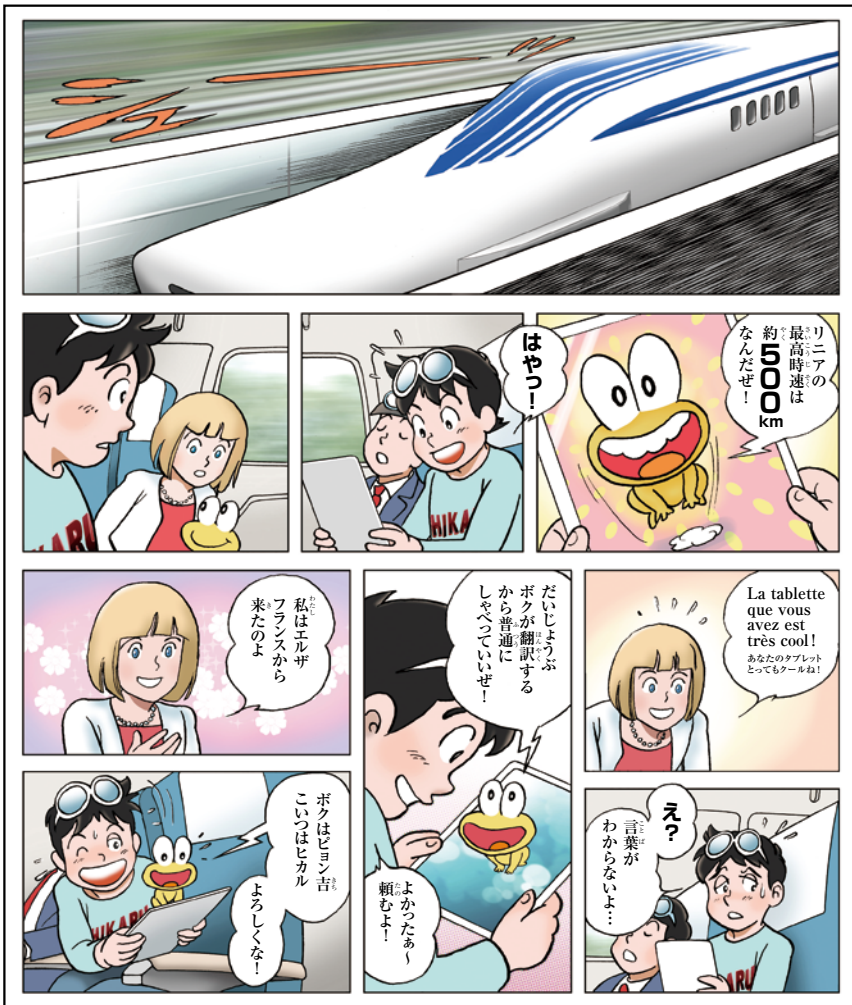


吉野さん一家

ヒロシの家のお隣さん



リニア
で
変わる
やまなしの姿



あらすじ

時は、リニア中央新幹線が開業してから10年後の2037年。15年ぶりにアメリカから山梨に戻ってきたヒロシ(と根性ガエルの主人公)とその息子のヒカル。2人の目を通してリニアで変わる、やまなしの姿を描いていく。

前号(第2回)では、リニアに初めて乗る2人が、品川駅で会ったウメヤと時間短縮によって広がるビジネスチャンスについて話した。

今号では、リニアの車内で会ったフランス人のエルザと、海外から訪れる旅行客の日本での過ごし方などについて話す。

作:吉沢やすみ 作画:石川森彦



万能AIとして生まれ変わったボクが
リニア中央新幹線の開業によって
変わる山梨の姿について説明するよ!

ピョン吉の リニア豆知識

リニア山梨県駅

- リニア山梨県駅は、甲府盆地の南側、甲府市大津地区にあるよ。
- 高速道路と直結する新幹線駅としては、全国初なんだ。
- 近くには、アイメッセ山梨、国母工業団地、山梨大学医学部附属病院があるよ。



海外からの旅行者

- リニアを使うと、国際空港から山梨まで、すぐに来ることができるんだ。
- 交通が便利になったことで、ますます多くの人々が海外から山梨のいろいろな所にやって来ているよ。
- 「やまなし」の知名度は、世界中に広がっているんだ。

主な国際空港	所要時間
羽田空港	約60分 (約140分)
成田国際空港	約105分 (約190分)
中部国際空港	約85分 (約240分)

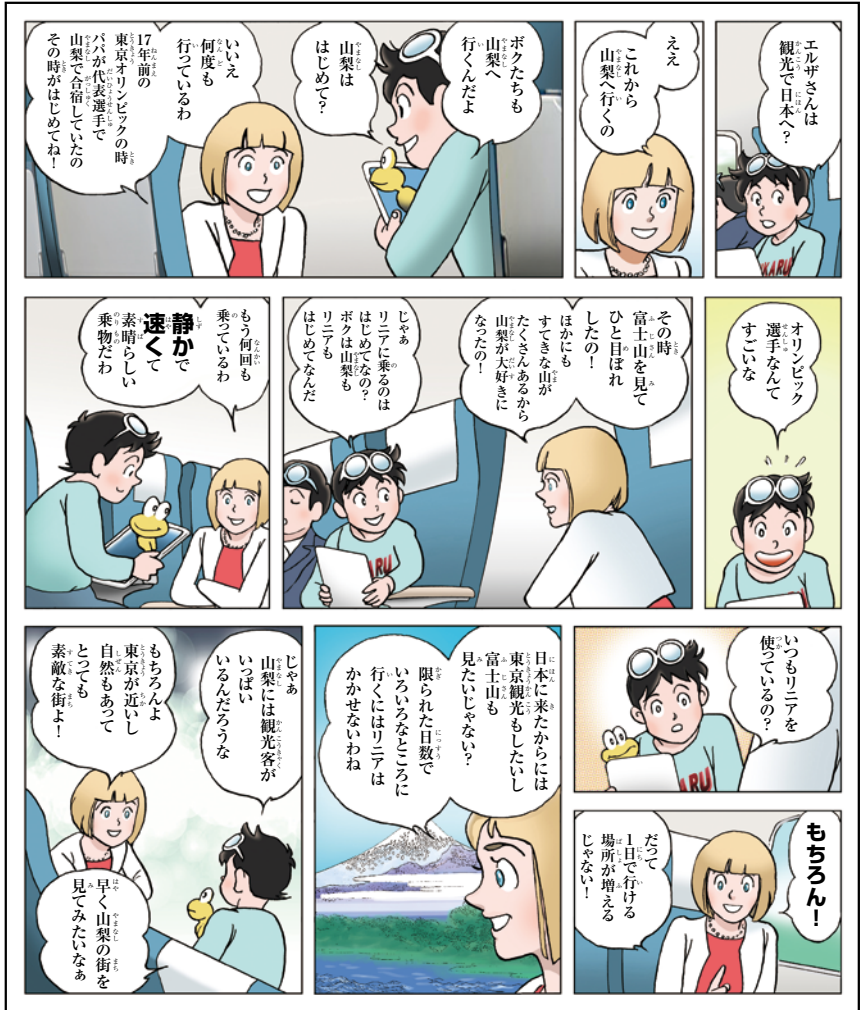
※()内はリニア開業前の所要時間
【出典：山梨県リニア活用基本構想】

観光への影響

- 山梨には、富士山などの魅力的な観光スポットがたくさんあるよね。
- リニアが開業して移動時間が短くなったから、東京に加えて名古屋、大阪からの観光客も増えているんだ。
- 観光客の滞在時間も長くなって、山梨の魅力を満喫できるようになったんだ。

豆知識で学んだことで クイズに挑戦してみよう!

QRコードを読み込んで、
ピョン吉AIのサイトに
アクセスしよう!



つづきは、「ふれあい vol.58」(平成30年10月1日発行)に掲載します。



やまなし サイエンスラボ

山梨の産業の活性化や県民生活の向上を目指す試験研究機関の紹介

vol. ⑤ ワインセンター



本格派スパークリングワインの 製造方法を確立

産業技術センター（ワインセンター）では、2020年東京オリンピック・パラリンピックの各種イベントにおける祝杯酒として期待される、山梨県産スパークリングワインの高品質化に向けた研究開発を行っています。

ワイン産業を 技術的・科学的に支援

ワインセンターは、昭和4年に設置した山梨県醸造研究所を母体として、昭和49年、ワイン産地・勝沼の地に開設しました。以来、ワインの醸造、調合、分析、貯蔵、出荷管理技術の相談・支援、技術者育成を行っています。また、山梨を代表する地場産業の一つであるワイン産業の普及、発展のため、その時代に応じた新しい技術の検証などを実施してきました。例えば、本県特有のブドウの甲州にはどんなワイン酵母が合うか、畑による違いがあるかなども分析し、県産ワインの品質向上を実現するなど、山梨が世界に誇るワインの高品質化に向けて重要な役割を果たしてきました。



産業技術センター
ワイン技術部
恩田 匠 主幹研究員・部長

本格的なスパークリング ワインの造り方をマニ アル化し、普及を図る

近年、県内の生産者から甲州を使つて本格的なスパークリングワインを造りたいという要望があり、それに応える形でセンターでも研究を開始しました。スパークリングワインの造り方は、さまざま製法があります。圧倒的に多いのはワインにガスを吹き込む簡易的なガス封入法ですが、正統的な造り方は、二次発酵による製法です。中でも最も伝統的なのが、シャンパンの起源でもあるフランスシャンパーニュ地方で行われている瓶内二次発酵です。しかし、この製法には複雑な技術とノウハウが必要となります。そこでセンターでは、実際に



ワインセンターと共に
スパークリングワイン
の高品質化に取り組ん
でいます

株式会社 シャトレーゼ
ベルフォーレ ワイナリー
勝沼ワイナリー 工場長
戸澤 一幸さん

当社では以前からスパークリングワインを造って
いましたが、ワインセンターからシャンパーニュ地方
の醸造技術の細かい部分まで教えていただき、製
品の高品質化が進みました。おかげさまで日本ワイ
ンコンクールで金賞を受賞することもできました。

センターでは講習会やテイスティング会なども開
催され、幅広くワインの勉強ができます。また、実験
設備を利用するためセンターに伺った際、他のワイ
ナリーの方と情報交換をすることができるのも大
変有意義です。これからもセンターと共に、消費
者のニーズをキャッチしながらワインの高品質化に取
り組んでいきたいです。



シャトレーゼ 勝沼ワイナリーのスパークリングワイン貯蔵所にて。センターの
研究員は、県下約80のワイナリーを個別に巡回し、生産者とコミュニケー
ションを取りながら、技術普及を図っている



ワインセンターの実験室は県内の生産者に開放。実験
や分析のため活用されている(上)
ワインセンターのスパークリングワイン貯蔵所(下)



シャンパーニュ地方に行き、現地ではなけれ
ば分からないことを見て学び、それをマ
ニュアル化することで県内の生産者に普
及を図っているところです。甲州はシャ
ンパーニュ地方の生産者からもスパーク
リングワインに適しているとの評価を受
け、期待が寄せられています。

東京オリソピックでは 華やかなロゼで乾杯を

近年、ワインの中でもロゼの人気が高
まっています。2020年東京オリソピッ
クにおける、さまざまなイベントでも
ロゼのスパークリングワインの華やかさは
祝杯酒としてふさわしいことから、製品
化に向けて現在マスカットベリーAを
中心に研究を行っています。昨年仕込



ロゼ・スパークリングワイン(右)
は研究に先行して、昨年度に
仕込んだ試作品

んだものが間もなく完成しますので、
今後は、その成果を見てさらに研究を
進めていきます。東京オリソピック関連
のイベントでは、甲州の白と、マスカット
・ベリーAのロゼによる紅白のスパーク
リングワインで多くの方々に乾杯してほ
しいと思います。シャンパーニュ地方の製
法の単なる真似ではなく、甲州やマス
カット・ベリーAなどの品種の特性に
合わせた製法を確立し、山梨ならではの
スパークリングワインを世界に発信し
たいと考えています。

ワインセンター



【問い合わせ先】

住所: 甲州市勝沼町勝沼2517

TEL 0553-44-2224 FAX 0553-44-2385

山梨 ワインセンター

検索



[シュン!]

瞬

やまなしの

vol.
17

御師の家の歴史を受け継ぎ
その文化を伝えていきたい

ゲストハウス&カフェ「hit suk i」経営
大鴈丸奈津子さん



「子どもが小さいのでいろいろと手が回らないのですが、口コミやSNSを通じて国内外からお客さんが来てくれます。それに日曜日と月曜日に営業しているカフェにも、観光客や地域の方がぶらりと立ち寄って、お茶を楽しんでくれます。とてもうれしいし、ありがたいと思っています」

ゲストハウス&カフェ「hitsuki」

富士吉田市上吉田7-12-16 TEL 080-1525-9515

御師のいえ 大鴈丸

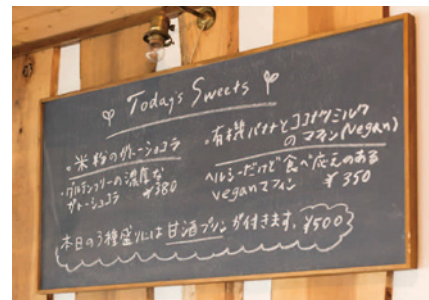
検索



ゲストハウスの宿泊スペースは10畳間が2室、8畳間が2室、6畳間の個室が1室。ふすまを開放してイベントを開催することも。部屋には、「大鴈丸」に伝わる、よらいなどが展示されている



木工ショールームとしての顔も持つカフェ。温かみのあるテーブルや椅子、建具など、ほとんどがご主人の一志さんの作品



カフェでは、主に体に優しい飲み物や、奈津子さん手作りのケーキなどを提供

嫁いだのは、約400年続く御師の家

御師の家をリノベーションし、ゲストハウス&カフェを経営する大鴈丸奈津子さん。米国での大学時代、ルームメイトに触発されて環境にも優しい食事やお菓子里に興味を持ち、卒業後に訪れたコスタリカで月の満ち欠けによって、種まきや収穫の時期などを決めていく農法体験をしたことで「畑をライフワークに」との思いを抱くようになったといいます。

帰国後、鳴沢村の有機農業を実践するゲストハウスで働いていたときに出会ったのが、約400年前から続く御師の家「大鴈丸」の18代目であるご主人の一志さんでした。出会ったときは、長い歴史を持つ御師の家の人で、木工職人をしているとは聞いていましたが、古くからある屋敷が残されていたり、その中がどのような雰囲気なのか、など詳しいことは知らなかったといいます。

「その後主人が私に、幼いときの御師の家の様子や歴史あるこの屋敷を残していきたいという気持ちを一生懸命に話してくれたことで、次第に主人の御師の家に對する思いに共感するようになり、私もこの屋敷を残して、私なりの方法で御師

の文化を伝えていきたいと思うようになりました」と奈津子さん。

よみがえった御師の家で感じてほしい富士山の魅力

「大鴈丸」は一志さんの曾祖父の代で御師を廃業。屋敷の解体も検討したそうですが、「私たちは、誰でも気軽に立ち寄り交流ができて御師の文化も知ってもらえる、『現代版御師の家』として再生したいと考えました。そして思い付いたのが、私たちの個性を生かせる、ゲストハウスとカフェ、そして木工ショールームを組み合わせたというスタイルでした」と奈津子さん。その後、自分たちの手で屋敷を改築し、2016年9月、ゲストハウス&カフェ「hitsuki」をオープンしました。

「せっかくの富士登山なのに、ただ頂上を目指すだけではもったいない。御師を知ることで見方が変わるし楽しみ方も増えると思うので、もっとゆつくり富士山の魅力を満喫してほしい。私自身も信仰の歴史や御師の文化をもっと広めていきたいですね」と、奈津子さん。

御師の家に宿泊し、歴史や文化に触れてもらった後で、富士山頂を目指す1泊2日のツアー企画なども今後提案していきたいと、意気込みを語ってくれました。

大洪水で被害を受けた山梨を復興支援

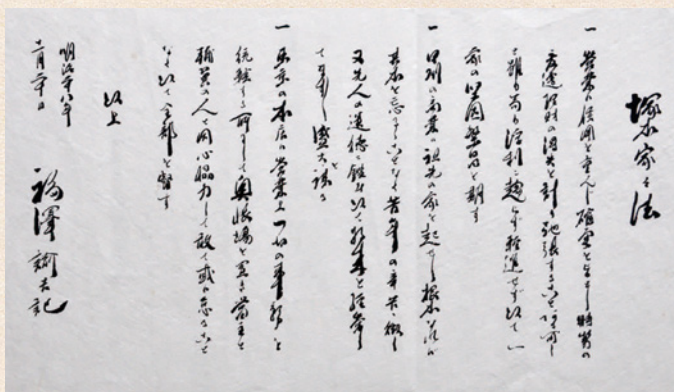
塚本定右衛門

1861-
1948

(株)ツカモトコーポレーション資料館「聚心庵」提供



「紅屋」創業当時、店頭に掲げられていた「小町紅」の看板(聚心庵蔵)



創業の地、甲州を大切にするよう記載されている「塚本家々法」(聚心庵蔵)

近江の豪商「塚本家」に生まれ
遺訓「我家の財産は天に委託すべし」の精神の下
社会事業に尽力した三代目・塚本定右衛門。
明治期の度重なる水害で困窮した
創業の地、山梨の治山治水事業を後押しした。



近江商人の理念を 体現する「塚本家」

塚本定右衛門は、1861(文久元)年、近江国神崎郡川並村(現滋賀県東近江市)の商人、塚本定次(二代目・定右衛門)の次男として生まれた。幼名は定次郎(後、定治)。定右衛門は当主の名跡である。

定右衛門の祖父・久蔵(初代・定右衛門)は、「善行をし、家業に励め、家を興すことが親孝行の第一だ」という先代の遺言を胸に、19歳の時に五両の金を元手に行商に出た。この頃の近江商人は麻織物や編み笠などを地方に売り歩き、生糸や紅花など、めばしい商品を仕入れ京都に持ち帰るというスタイルで活動していた。久蔵も、麻織物や当時流行した「小町紅」を仕入れて売り歩いたところ、甲府で紅がよく売れたことから、1812(文化9)年、甲府・柳町に小間物商「紅屋」を創業した。1839(天保10)年には京都に店を出し、取り扱う品も京呉服へと拡大した。さらに、定右衛門の父・定次の代になると、東京・日本橋に本店を開設するなど、「紅屋」は飛躍的に発展していった。定右衛門も父や叔父と共に家業の拡大にいそしみ、1886(明治19)年、26歳で家督を継

ぐと、持ち前の商才と先見の明を遺憾なく発揮していった。その後、1889(明治22)年に有限会社塚本商社を設立、1893(明治26)年には塚本合名会社に改組するなど、「塚本」の社業の礎を固めていった。

一方で、塚本家は社会貢献にも積極的だった。とりわけ父・定次は熱心で、滋賀県の学校などの公共施設の建設費や道路改修費を度々寄付した。また、治山治水にも理解が深く、荒廃した山々を憂い、13年間にわたり植林費を寄付し続けた。そうした父の影響を色濃く受けて育った定右衛門にもまた、遺訓「我家の財産は天に委託すべし」の精神が着実に受け継がれていった。

相次ぐ水害に見舞われた 塚本家創業の地、山梨に寄付

1907(明治40)年、山梨県内は未曾有の大雨に見舞われた。8月22日の早朝から約1週間断続的に降り続いた結果、県内各地で大洪水が発生。人、家畜、田畑、家屋、橋、あらゆるものが流され、壊された。中でも悲惨を極めたのは峡東地方で、河川が氾濫し、汚泥が鉄砲水となって町や人を飲み込んだ。

さらに、追い打ちをかけるように1910(明治43)年、8月6日から11日

にかけて豪雨が再び県内を襲った。前回の大洪水から3年。再度の災害に、いまだ復興途中にあった県民は、心身ともに疲弊し、山梨県の財政は困窮を極めた。1911(明治44)年3月、窮状を知った明治天皇の特別な御沙汰により、県



塚本山のヒノキ林(山梨市)。県の見本林として「やまなしの森林100選」に選ばれている

内の森林面積の約半分に相当する御料地が恩賜林として御下賜された。

小間物商「紅屋」創業の地、山梨の復興のため、先の水害でも見舞金を寄付した定右衛門であったが、恩賜林御下賜の報に感激し、同年8月、治山治水のための植林事業に莫大な寄付をした。

山梨県は、これをもとに、とりわけ甚大な被害をもたらした笛吹川の上流に位置する恩賜林にヒノキ、スギ、カラマツの良苗を3年間にわたって植林した。その後、その地は定右衛門の功績をたたえ「塚本山」と命名され、今も、ヒノキやスギが豊かに茂り、人々の暮らしを守っている。

1922(大正11)年、定右衛門は、創業地である甲府・柳町の紅屋の土地建物を、図書館として使ってほしいと甲府市に寄贈し、1948(昭和23)年、88歳で生涯を閉じた。



山梨近代人物館

山梨県庁舎別館2階(甲府市丸の内1-6-1)

第7回展示「明治を彩った山梨の人々」
期間：～9月27日

開館時間：午前9時～午後5時
休館日：第2・4火曜日/12月29日～1月3日
入館料：無料
TEL 055-231-0988 FAX 055-231-0991

〈記事監修〉山梨大学 名誉教授

齋藤康彦

信玄公祭り

サイクルロードレース開催

2 020年東京オリンピック自転車競技(ロードレース)コースの県内

誘致に向けた機運を高めようと、4月に開催された信玄公祭りにおいて「信玄公サイクルロードレース」が行われました。

今回初めて実施されたこのレースは、甲府駅南口から県防災新館前までの平和通りを周回するもので、約60人が参加したパレードの後、プロ選手らによるレースが行われました。スピード感溢れるレースを目の当たりにした観衆は、熱心に声援を送ったり、選手の勇姿をカメラで撮影したりするなどし、大きな盛り上がりを見せていました。



平和通りを疾走し、サイクルロードレースの魅力をPRする参加選手ら

産業技術センター 富士技術支援センター

研究開発支援棟を開所

本 県の地場産業である繊維製品の

一層の高品質化や、今後成長が見込まれる医療機器分野などでの技術支援を強化するため、富士技術支援センターに研究開発支援棟を整備しました。

研究開発支援棟には、新製品の開発を支援するための多様な試験機器やプラスチックなどの材料の性能評価機器などを備えた試験室を設けるとともに、県内外の技術者との連携を強化するためのテレビ会議システムも導入しました。

今後、この支援棟が新製品の開発などに活用されることで、企業の成長や地域の活性化につながることが期待されます。



新たに整備された研究開発支援棟の開所式

フランスオリンピックピック委員会と

各競技団体関係者が

知事を表敬訪問

ア ムサレム副会長をはじめとする

フランスオリンピック委員会と、各競技団体の関係者が山梨を訪れ、後藤知事を表敬訪問しました。

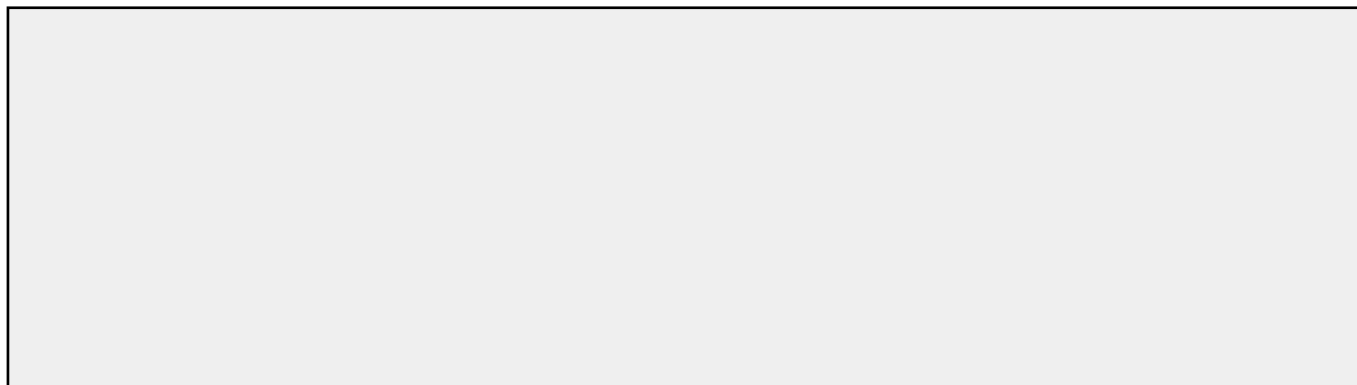
本県では、すでに県内9市町村においてフランスの8競技団体の事前合宿が決定しています。これらの円滑な実施などに向け、本県への理解を深めてもらうと来県を働き掛けてきたところ、今回の訪問が実現しました。

この訪問の中、後藤知事とアレサレム副会長は、記念品を交換するなどして、本県とフランスの交流をさらに深めました。



アムサレム副会長から、記念品のパリ五輪PRバッジを贈呈される後藤知事

ここから下の段は広告です。広告の内容については、広告主にお問い合わせください。



四川省訪問団が来県し 友好を深める

本

県と友好締結している中国・四川省の尹力いんりき省長をはじめとする訪問団が来県し、後藤知事を表敬訪問しました。これに併せ、四川省を紹介するイベントが県防災新館の県民ひろばで開催されました。

イベントでは、尹力省長から後藤知事に友好の証としてパンダの置物が贈呈され、四川省との絆をさらに深めることとなりました。また、訪れた方々は四川料理の試食やパンダの絵付け体験をしたり、四川省の観光地などを紹介するパネル展を観覧したりするなどし、四川省の食や文化を楽しんでいました。



パンダの置物に互いに目入れをした尹力省長と後藤知事

新「あかふじ」が 間もなく運航開始

県

では、導入から20年以上が経過し老朽化が進んだことから、消防防災ヘリコプター「あかふじ」を更新しました。山々に囲まれた地形において、ヘリコプターによる活動は効果的ですが、危険を伴います。このため、操縦士や消防防災航空隊員らが新しい機体に慣れるための訓練を重ね、新「あかふじ」は7月下旬から正式に運航を開始する予定です。



新「あかふじ」の機体外観

菊池彩花選手に 山梨県イメージアップ大賞を贈呈

県

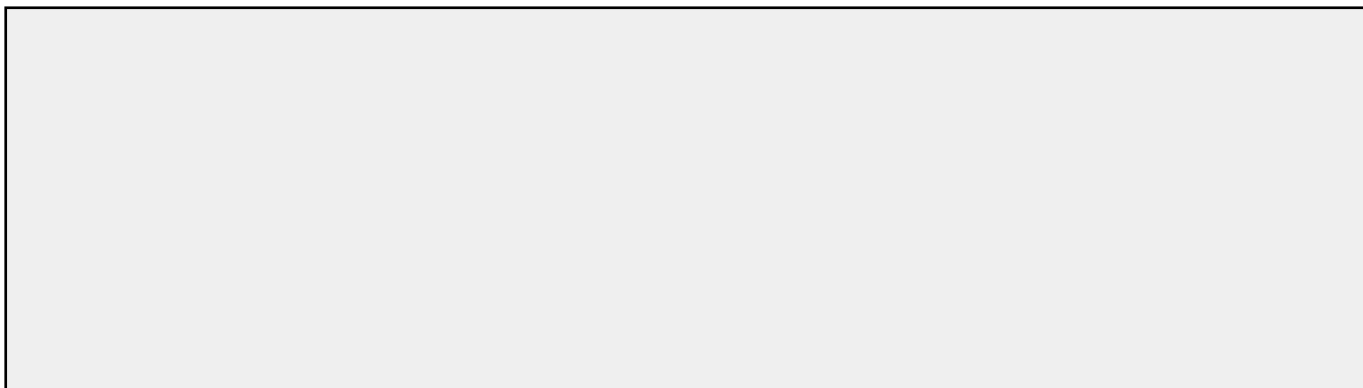
では、平昌冬季オリンピックスノーボードスケート女子チームパシュートにおいて金メダルを獲得した菊池彩花選手に、山梨県イメージアップ大賞を贈呈しました。

県庁で行った表彰式で、菊池選手は「県民の皆さんをはじめ、多くの方々の応援を力にして金メダルを取ることができ、本当にうれしく思います」と喜びの言葉を述べました。また、後藤知事は「これからも、さまざまな場面で、県民の皆さんに夢や希望を与え続ける存在になっていただきたい」と激励しました。



県産材(ひのき)を使用した表彰状を手に、後藤知事と握手を交わす菊池選手

ここから下の段は広告です。広告の内容については、広告主にお問い合わせください。



ジュエリーミュージアム

甲府市丸の内1-6-1 山梨県防災新館1階やまなしプラザ内
TEL 055-223-1570 FAX 055-223-1572

企画展

開館5周年記念 主張するジュエリー

2013年9月28日に開館したジュエリーミュージアムは今年で5周年を迎えます。本展では、その節目にふさわしい華やかな作品を紹介します。

ジュエリーは身に着ける人を美しく飾り、魅力を引き出し、印象づけるものですが、素材を生かす職人の技に裏打ちされたジュエリーは、作品そのものが力強く語りかけてきます。確かな技術によって生み出された「主張する」山梨のジュエリーをお楽しみください。

開催期間／～10月8日(月・祝)
観覧料／無料



ブローチ《カーネーションブーケ》
デザイン:内田千奈美
制作:(株)近藤宝飾
(株)KARAT 丹澤昌二



ネックレス《ファイアーオパールネックレス》
制作:(株)ジュエリーイヌマ

県立考古博物館

甲府市下曾根町923
TEL 055-266-3881
FAX 055-266-3882

夏季企画展 甲斐の古代寺院

山梨県内には、古代に由緒を持つ寺院が80カ所以上と数多くあります。本展では、山梨における仏教文化の礎を築いた古代寺院の様子を貴重な考古資料から読み解いていきます。



中央:金銅観世音菩薩立像(複製)東畑遺跡
当館蔵(原品:県指定・甲府市教育委員会蔵)
左右:金銅観世音菩薩坐像(複製)松の尾遺跡
当館蔵(原品:県指定・甲斐市教育委員会蔵)

開催期間／7月28日(土)～9月2日(日)
観覧料／無料

富士山世界遺産センター

富士河口湖町船津6663-1
TEL 0555-72-0259
FAX 0555-72-0211

企画展 登山道と御中道

かつて富士山には、夏を迎えると、日本各地から数多くの道者が集いました。本展では、山頂への登拝を志す道者がたどった「吉田口登山道」と、富士講の道者が中腹を巡拝した「御中道」の二つの道を通して富士信仰のあり方を紹介します。



富士山御中道図(個人蔵)

開催期間／7月25日(水)～9月24日(月)
観覧料／一般420円 大学生210円

県立科学館

甲府市愛宕町358-1
TEL 055-254-8151
FAX 055-240-0168

開館20周年夏期特別企画展 科学ニンジャ学校 信玄先生の夏期講習の段

参加者が、見習い忍者として、昇級試験を受けるために夏期講習会場である「科学ニンジャ学校」を訪れるという設定。学校では、参加者が体を鍛え、科学的な知識を得ることで上級忍者への昇級を目指します。



開催期間／7月21日(土)～8月26日(日)
入場料／大人200円 小人無料
※入館料別途。土曜日は、高校生以下入館無料

富士山科学研究所

富士吉田市上吉田字丸丸尾5597-1
TEL 0555-72-6206
FAX 0555-72-6183

企画展

知りたい! 富士登山 -高山病を考える-

当研究所では、富士登山中の急性高山病の実態について研究を進めています。本展では、研究成果を基に安全で快適に富士登山を楽しんでもらえるよう、科学的な知識から高山病の原因や症状、対処法などについて、パネルを使って紹介します。



開催日時／～10月21日(日)
観覧料／無料



県立美術館

甲府市貢川1-4-27
TEL 055-228-3322 FAX 055-228-3324

開館40周年記念 魔法の美術館 光と遊ぶ、真夏のワンダーランド

体を動かすことで音や光をダイナミックに操ることができる作品や、絵本の世界に迷い込んだような幻想的な作品など、子どもから大人まで直感的に楽しめるメディア・アートの展覧会です。光ったり、動いたり、映像や音が変わったりする不思議な作品たちが皆さんをお待ちしています。光と影が織りなす魔法のアートの世界を、ぜひお楽しみください。



藤本直明「色のある夢」©naoaki FUJIMOTO

的場やすし/山野真吾/徳井太郎「SplashDisplay」
©yasushi MATOBA/shingo YAMANO/taro TOKUI
協力:電気通信大学小池研究室

開催期間/6月30日(土)~8月26日(日)
観覧料/一般1,000円 大学生500円
※各種割引などあり。詳しくはお問い合わせください。

県立博物館

笛吹市御坂町成田1501-1
TEL 055-261-2631 FAX 055-261-2632

企画展 誕生50周年記念 リカちゃん展

1967年に誕生した着せ替え人形のリカちゃんは、2017年に50周年を迎えました。リカちゃんの世界観は、移り変わる時代のファッションや住宅事情、ファミリー像や価値観を映し出してきました。

本展では、歴代のドールやハウスなど約700点が勢ぞろい。祖母・母・娘の3世代にわたる少女たちの夢の世界と、日本の50年の変化を振り返ります。「わたしのリカちゃん」、そして「あの日のあなた」にぜひ会いに来てください。



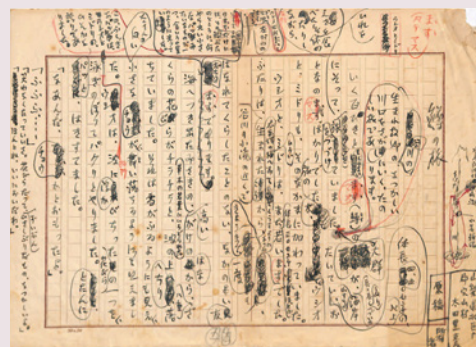
開催期間/7月14日(土)~9月3日(月)
観覧料/一般500円 大学生250円
※各種割引などあり。詳しくはお問い合わせください。

県立文学館

甲府市貢川1-5-35
TEL 055-235-8080 FAX 055-226-9032

特設展 童話の花束 子どもたちへの贈り物

山梨ゆかりの作家の児童文学作品をテーマにした展覧会です。本展では、「赤毛のアン」などの翻訳とともに童話の創作でも知られる村岡花子、児童文学雑誌「赤い鳥」に「蜘蛛の糸」「杜子春」を発表した芥川龍之介、少年少女向けの歴史本編集に携わった前田晁、母親がわが子に読んで聞かせる「おかあさん童話」の創始者の徳永寿美子、「マスの大旅行」「山ばとクル」ほか独自の動物読み物を執筆した太田黒克彦などの作品を紹介します。



太田黒克彦「マスの大旅行」草稿
太田黒は疎開をきっかけに韮崎市に移住した

開催期間/7月14日(土)~8月26日(日)
観覧料/一般320円 大学生210円
※各種割引などあり。詳しくはお問い合わせください。

「蜘蛛の糸」が掲載された「赤い鳥」創刊号
1918(大正7)年7月 表紙:清水良雄

ふれあい 読者プレゼント

ハンさんの おいしいくわ茶 抽選で5名の方に!



「やまなし美味しい甲斐」の
ホームページで通販も
ご利用いただけます。

美味しい甲斐

検索



結果発表! 「山梨の夏」あなたのイチオシは?

春号のアンケートに寄せられたご意見の一部を紹介します。

スポット

富士北麓の風穴や氷穴は涼しさと同時に、光景が素晴らしい(甲府市・50代女性)。吉田の火祭りは、たいまつが幻想的(山梨市・30代女性)。富士山をはじめとした登山。最高の避暑地(甲府市・60代男性)。清里高原での散歩(甲府市・70代女性)。神明の花火大会は圧巻(市川三郷町・60代女性)。



食べ物

新鮮なブドウ・モモ・スモモは絶品(甲府市・60代男性)。冷えたおざらと吉田のうどん(鳴沢村・50代女性)。清里高原で食べるソフトクリーム(上野原市・50代女性)。



アンケート

問1:今号の中で最も関心を持った内容は?

問2:山梨で「働く・暮らす」魅力とは?

※頂いたご意見の一部は、秋号で紹介させていただきます。

応募方法

アンケートの回答と、次の①～⑤をご記入の上、はがき、電子メール、ファクスのいずれかの方法でご応募ください。

①郵便番号 ②住所 ③氏名 ④年齢・性別 ⑤電話番号

応募先

山梨県広聴広報課「ふれあい読者プレゼント」係
はがき:〒400-8501 甲府市丸の内1-6-1

電子メール:koucho@pref.yamanashi.lg.jp

(件名に「ふれあいプレゼント」と入力)

ファクス:055-223-1525

締め切り

7月31日(火)(当日消印有効)

商品の発送をもって、当選発表に代えさせていただきます。
個人情報、商品の発送のみに使用します。

山梨県の広報誌「ふれあい」が読める無料アプリ



「マチイロ」のアプリをダウンロード(無料)すると、スマートフォンで「ふれあい」が読めます。

マチイロ 検索

ここから下の段は広告です。広告の内容については、広告主にお問い合わせください。